

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金Ⅱ社会Ⅱ未来」

町田市立町田第三中学校 3学年 関口 裕哉

僕らは、税金について学ぶ必要がある。

僕は、学校で税金について、学んだ。難しくてよく分からなかったが、これからの僕たちの未来に深く関わるものが分かった。その内の一つが、少子高齢化社会により、たくさんのお金の生活が少ない人数の若者が支えなければならぬということだ。これにより、僕たち若者の生活も苦しくなってしまうのだと思った。なので、社会の授業などを、税金と関連づけて学ぶ必要があると感じた。他の国では、もっと税金の多いところが多いと聞いた。僕にはなぜ税金を高くする必要があるのかわからない。なぜなら、税金を高くすることで、僕たち若者の負担が増えるのではないかと思ったからだ。僕が学校で習った時には、その話題について触れてくれなかった。この状態で作文を書くのは、僕にとっても、みんなにとっても、難しいことだろう。僕は将来のためにも税金について学びたい。僕は税について調べてみた。調べてみたら、酒税法というものがあると知った。お酒は大人がみんな飲んでる。大人はお酒が好きだ。そのため、お酒というものはたくさん売れる商品であると僕は思う。そういった人気のあるものに税金をかけると、たくさん税金が集まるに違いない。これに僕は賛成だ。なぜなら、効率よく嫌な気持ちになることなく税金を集められるからだ。でも、これはお酒の飲める大人に少しだが限られてしまう。そこでスマートフォンのアプリなど、全世代が使うものに税金をかけたらどうだろう。そうすることで、より効率を良く税金を集められるのではないか。実際、日本のスマホ普及率は九十パーセントを超している。こういった意見もみんなに知ってほしい。そのため、税金について意見を投書できる機会をつくったらどうだろうか。僕たち中学生の意見が大人たちに届いてくれると嬉しい。

僕らは税について意見を言う必要もある。ならば、資料を見て作文を書くのではなく、学校の授業でスライドを見ることや、話を聞くことで、税金について学びたい。これには税金について深く学べることを以外にも、みんなに作文を書くために配った資料を作るときにかかる税金を減らせるという利点がある。こういった少しの工夫で僕たちを変えられると僕は考えた。

僕は作文が宿題として配られたときは、正直作文を書きたくなかった。しかし、作文を書いてみて、この作文は税金を学ぶための作文ではなく、税金を学ぶ方法を考えるための作文だと感じた。税を学ぶ方法は、効率よく税を学ぶためにも必要となる。そして税を学ぶことで僕たちの未来がさらに良いものとなるだろう。今日僕が提案した学校の授業でスライドを見ることや話を聞くことで税金を学ぶという方法をぜひ採用してほしい。これも、より良い未来を創ることに繋がるだろう。